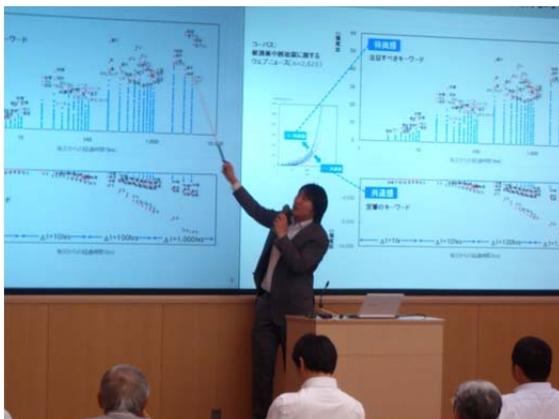


第 48 回自然災害科学総合シンポジウムで佐藤翔助教が講演しました(2011/9/13～14)

9月13日(火)～14日(水)の2日間、キャンパスプラザ京都(京都市)にて、第48回自然災害科学総合シンポジウムが開催されました。本シンポジウムは、自然災害研究協議会が主催するもので、今年で第48回を迎えます。同協議会は、自然災害研究の企画調整、突発災害調査の組織、自然災害研究者のネットワークの構築・維持に関する機能を継続・強化するための機関で、全国に6つの地区部会があり、当センターはそのうち東北地区部会として所属しています。1日目は、文部科学省による突発災害調査研究や本協議会による災害調査研究がなされた新燃岳噴火災害、奄美大島豪雨災害、ならびに東北地方太平洋沖地震について、それぞれの研究代表者から調査報告がなされました。1日目の後半から2日目にかけては、「自然災害科学に関わる研究者・ステークホルダーとの協働による総合防災科学の構築に関する研究(京都大学防災研究所重点推進型共同研究)」というテーマで、「東日本大震災からの教訓(I・II)」、「きたるべき東海・東南海・南海地震に向けて」、「災害情報のこれからの役割」のセッションで計9件の講演がありました。当センターの佐藤翔助教は、最後のセッションで今回の東日本大震災に関するウェブ情報に関する調査・解析についての講演を行いました。今回のシンポジウムは、一般市民の方々を対象に京都大学が開催している「大震災後を考える」という計13回のシンポジウムシリーズとなっており、災害・防災研究者のほか一般からの参加も目立ちました。なお、今回の講演の様子は、後日、京都大学のOCW(オープンコースウェア)システムに掲載されることとなっています。
<http://ocw.kyoto-u.ac.jp/>

講演題目

佐藤翔輔, 今村文彦ら: 膨大な文書から社会現象としての災害を観る—TRENDREADERによる言語資料の解析—



講演の様子(1)



講演の様子(2)